



正岡 千博 議員

本市の農業を考える

問

- ① 農業従事者の現状
- ② 作物別の面積・量・額、耕作放棄地の推移、圃場整備の現状は。
- ③ 農業振興センターの今後の成果
- ④ 「一人・農地プラン」の現状と今後の予定

答 産業建設部長

① 農業従事者は、平成17年は3288人、平成22年は2886人であり、402人、12%減少している。年齢別では、65歳以下が750人、65歳以上が1789人、そのうち80歳以上は424人で、17%を占めている。

② 推移と現状は表のとおり。

区分	面積 (ha)		生産量 (トン)		生産額	
	平成17年	平成22年	平成17年	平成22年	平成17年	平成22年
米	686	689	3,580	3,500	8億3,000万円	7億4,000万円
野菜	400	345	7,780	6,300	15億円	13億2,000万円
果樹	960	839	10,540	7,290	-	-
耕作放棄地	439	480				
水田圃場	1,006	793				

農林業センサス・愛媛農林水産統計年報等より

答

中村市長

③ 開設後は、県・市・農協・農業委員会などの地域関係機関が、合意形成

と役割分担のもと同一窓口で連携し、本市が抱えるさまざまな農業問題に対し、一体的な取り組みができるかと期待している。④ 本年度は、モデル地区として4地区を、来年度はその他の地区を対象として、説明会の開催や資料提示など積極的に支援していきたい。

ため池の管理、景観を考える

問

- ① 除草機械の購入、リース等への一部助成を。
- ② 160余りある、ため池の土手（堤塘）を草花で彩っては。

答 産業建設部長

① 現在実施している交付金事業で必要な機材の購入やリースが可能である。また、県でもさまざまな集落活動を応援する事業に取り組んでいる。これを活用すれば、ボラン

ティアによるため池の草刈り等の応援をすることもできるので、地元で検討していただきたい。② 下流地域の住民へのため池のアピールをするよいアイデアであり、これに関しても、交付金事業での対応が可能であるため、該当する地域は、利用していただきたい。

地域に広場を

問

- ① 運動公園・ちびっこ広場の本市の現状は。
- ② 市民の声をどうとらえているのか。
- ③ 地域活動に運動公園やちびっこ広場の普及は大切だが、今後の施策は。

答 産業建設部長

① 本庁地区では、市管理の公園として都市計画公園が6カ所、その他公園が33カ所、地元区長等管理の公園が38カ所ある。中山地域では、市管理

の公園が3カ所、地元区長管理の公園は現在把握していない。

双海地域では、地域管理公園が3カ所、地元等管理の公園が10カ所ある。② 毎年1、2件程度は、既存の公園の改修や修繕について相談や問い合わせがあるが、現在対応できる補助制度がないため、地元で対応していただいている。

③ より一層の普及は、大切であると考えており、まず区長への要望調査を行い、事業としてまとめた要望があれば、地元の活動を支援したい。



どんぐり広場（烏ノ木東）